

■しずだい産学連携メールマガジンVol. 24

2009年12月15日発行 【毎月第3火曜日】

⇒静大産学連携広報より、お知らせやイベント情報をお届けします。
<http://www.cjr.shizuoka.ac.jp/>からもご覧いただけます。

★今回の“静大ラボ紹介”は、中野美恵子研究室です。

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

1. 「富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2009」のご案内
2. 「サイエンスカフェin静岡」のご案内
3. 静大創立60周年記念「静岡大学・中日新聞連携講座」のご案内
4. 経済産業省/日本貿易振興機構（ジェトロ）セミナーのご案内

※問合せ先のアドレスは、スパムメール防止のため表記を一部変更しています。メール送信の際は○欄に@を入れてください。

-
1. 「富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2009」のご案内
⇒ 東海iNETの紹介をします

日時 2009年12月16日（水）13：00～16：00
会場 ふじさんめっせ（富士市柳島189-8）
内容 ポスター発表エリア：東海大、沼津高専、
静岡県立大、富士常葉大ほか
プロモーションエリア：東海iNETの紹介ほか
参加費 無料
詳細 <http://www.iula.nmz.u-tokai.ac.jp/sympo09/index.html>
問合せ先 富士山麓A&Sフェア実行委員会事務局
東海大学開発工学部産学連絡協議会（I U L A）
e-mail iulamailOwing.ncc.u-tokai.ac.jp

-
2. 「サイエンスカフェin静岡」のご案内

日時 第35話 2009年12月17日（木）18：00～19：30
「ケイ素の有機化学～生活に役立つシリコンの化学～」
第36話 2010年1月28日（木）18：00～19：30
「芳香族化合物はなぜ安定か」
第37話 2010年2月19日（金）18：00～19：30
「植物油のはなし」
第38話 2010年3月25日（木）18：00～19：30
「原子核の内部を探る～ミクロな世界を支配する物理学～」
会場 B-nest静岡市産学交流センター6階プレゼンテーションルーム
主催 静岡大学理学部
参加費 無料（申込不要）
詳細 <http://www.shizuoka.ac.jp/~rigaku/sciencecafe/index.html>
問合せ先 静岡大学理学部 e-mail sci-cafeOipc.shizuoka.ac.jp

-
3. 静大創立60周年記念「静岡大学・中日新聞連携講座」のご案内

日時 第4回 2010年1月9日（土）14：00～16：00
「子育てのコツ、教えます～子育て支援コンテンツの

第5回 2010年2月13日(土) 14:00~16:00

「未来のテレビはこうなる～画像工学の現在と未来～」

会場 静岡大学浜松キャンパス佐鳴会館

参加費 無料

詳細/申込 <http://www.shizuoka.ac.jp/60th/images/chuu-simin-koza.pdf>

問合せ先 静岡大学生涯学習教育研究センター

e-mail LLCOipc.shizuoka.ac.jp

4. 経済産業省/日本貿易振興機構(ジェトロ) セミナーのご案内
「海外市場開発の新たな切り口としてのBOPビジネス」
～開発途上国市場の潜在的可能性と官民連携～

日時 2010年1月29日(金) 15:00~17:00

会場 グランドホテル浜松2階鳳西(浜松市中区東伊場1-3-1)

内容 「BOPビジネスとは何か」

佐藤寛 ジェトロ 貿易開発部 上席主任調査研究員

「BOPビジネスと日本企業」

菅原秀幸氏 北海学園大学 大学院経営学研究科 教授

「BOPビジネス先行事例と成功の秘訣」

平本督太郎氏 株式会社野村総合研究所

副主任コンサルタント

「BOPビジネスと官民連携」

佐藤寛 ジェトロ 貿易開発部 上席主任調査研究員

定員 100名(先着順)

受講料 無料

詳細/申込 <http://www.jetro.go.jp>

申込締切 1月22日(金)

問合せ先 ジェトロ静岡(担当:西沢、畠山) TEL 054-352-8643

《 静大ラボ紹介 -9- 》

教育学部生涯教育課程 中野美恵子研究室

平成21年版高齢社会白書によると、日本における5人に1人が65歳以上の高齢者であり、2055年には2.5人に1人が高齢者という超高齢社会への推移が予測されています。

中野研究室では、静大横山教授や地元企業と連携して、高齢者の為の自立体力プログラムを開発しました。日々の生活実態を反映した「歩行能力」「身体調整能力」「手作業能力」「姿勢変換能力」を測定し、現状の自立体力を把握することが可能です。開発されたトレーニングとテストを継続して行うことで、高齢者の自立体力とQOLを高めることが出来ます。自立体力プログラムが介護予防のスタンダードとなり、健康寿命を一日でも長く保ち、国民全体が充実した毎日を過ごせることを期待しています。(記:大西由香)

《 みんなのコラム 》

5、6年前から朝自宅周辺をウォーキングしている。距離は4Km程度。最初は単に足の運動と思って歩いていた。そのうちに道沿いに捨てられているゴミがあまりに多いことに気が付く。大きめのレジ袋を持ち、右手にビニール手袋をはめて拾い始めた。屈んで拾うのも運動である。煙草の吸殻、ペットボトル、スナック菓子の袋、コンビニ弁当の空き箱な

ど、最初は持ちきれないほどであったが、最近は一袋程度である。幹線道路や市場に近いためかもしれないが、毎日ほとんど同じルートであるにもかかわらずである。

たまにヨーロッパに行くと、街がなんてきれいだろうと感心する。日本人の環境に対するモラルの低さをどうやったら高められるのか。最低限、こういったテーマについて大学を含めて国、地域全体で今以上に真剣に検討すべき時と思う。

今年3月に行われた静大アメニティ佐鳴湖プロジェクトの公開シンポジウム、5月から始まった市民講座「人間と環境の現在と未来ー21世紀の日本を拓く」を聴講し、環境に対する関心をさらに深めた。創立60周年を迎え、「地域と連携 未来を拓く」を将来ビジョンとして掲げており、今後も市民対象に公開講座を頻繁に行う静大の環境教育に期待する。

さて、環境についてもう一つ。農作業をしていて生き物が少なくなっていることが気がかりだ。異常気象とは正常に戻ることに前提の言い方だが、それは無理なのだろうか。少年時代の慎ましい時代に戻るのが唯一の道と思うが。地球温暖化対策、化石燃料の枯渇など子供、孫に禍根を残さないように願うばかりである。（記：IJRC客員教授 鈴木孝典）

《 編集後記 》

11月27日、静大を含む12の東海・北陸地域国立大学長による記者会見が行われ、「地域を支える人材育成と研究開発ー最先端技術を支える国立大学の基礎研究力を次世代へー」と題した共同声明を発表しました。

これは、平成22年度の概算要求総額を削減するために、行政刷新会議による「事業仕分け」作業が行われたことに対し、政策決定過程の透明性を高める試みとして意義あるプロセスであることは理解しつつも、政策的投資が当面する予算削減の視点と即効性の観点から議論されることへの大学人としての危惧を示したものです。

私達の産学連携活動も影響を受けることは必須。しかし、多くの方のご支援ご理解でここまで積み重ねてきたことを無にはできません。

地域に根ざした大学の貢献を見直していただければ幸いです。

* - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - *

◆メールマガジンに関するお問合せ・配信先変更・担当者変更・購読中止のご連絡は、sangakukoho50cjr.shizuoka.ac.jp までお願いします。（↑送付の際は〇欄に@を入れてください。）

◆本メールマガジンの商業用の転載はお断りいたします。

発 | 行 | 者 |

国立大学法人静岡大学イノベーション共同研究センター（IJRC）
編集：原典子
編集責任者：木村雅和
〒432-8561 静岡県浜松市中区城北3-5-1
TEL 053-478-1414
URL <http://www.cjr.shizuoka.ac.jp/>

* - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - *
by Copyright(c)2008-2009 Innovation and Joint Research Center,
Shizuoka University. All rights reserved